

秋田県五城目町
朝市と城のある町

みんなの町議会

3年生最後の演奏を終え
胸がいっぱい ♪



主な内容

- 9月定例会の概要 2
- 決算特別委員会 3～5
- 一般質問に9名登壇 8～17
- わたしの居場所・がんばってます 20

Contents

No.164
2025.10.1



限られた財源が有効に使われているかをチェック



委員長
椎名 志保

決算特別委員会

委員長 椎名 志保
副委員長 松浦 真
委員 佐沢 由佳子
委員 小玉 正範
委員 中村 司
委員 館岡 隆
参事 与石 川交三
(議会議長)

決算特別委員会は、9月8日～11日までの4日間の日程で行われた。付託された議案は、令和6年度一般・特別会計歳入歳出決算など7議案であり、審査の結果、全議案を全会一致で認定すべきものとした。

審査日程

9月8日
委員長挨拶・審査方針説明
午前…総務課、議会事務局
午後…消防本部、税務会計課、住民生活課、商工振興課

9月9日
午前…建設課
午後…生涯学習課・学校教育課・まちづくり課

9月10日
午前…農業委員会、農林振興課
午後…健康福祉課

9月11日
午前…現地視察(ウッドロードLED化、五城目橋、廣徳寺橋、町道小野台墓地線、合地の災害現場、黒土農地被害)追加審査(住民生活課・商工振興課)
午後…認定について採決・審査総括

再びの大雨災害 追いつかない対策

9月 定例会

議会の経過

9月定例会は9月1日から12日まで12日間の日程で開かれた。

初日

- 5件の議員研修報告の後、荒川町長は行政報告で
- 令和6年度の財政状況
- 役場業務のデジタル化推進
- 五城目高校の存続支援
- 令和7年度町税の賦課状況
- 令和6年度決算概要
- 8月大雨の影響
- 「マイナ救急」の取り組み

○子育て世帯応援給付金事業
○「かむかむラズベリーソーダ味」全国発売

熊の出沒

○朝市サミット概要
○上下水道料金改定
○全国学力・学習状況調査結果

「二十歳のつどい」

「二十五歳のつどい」開催などについて述べた。

その後、委員6名を選出し

決算特別委員会を設置。



9月2日未明からの大雨、町道が通行不能に(富田地区)

2日目

9月2日未明からの大雨による被害発生のため、議員のみで開会し、すぐに散会した。

3日目

一般質問に6名が登壇。カラス対策、こども基本計画、河川の整備状況と今後の治水対策、労働力不足解消、公共施設の開放、緊急銃猟などを質問した。

4日目

一般質問に3名が登壇。農業機械への助成、新入学児童への「軽量リュック」無料配布、ホームページの改善について質問。

当局より令和7年度一般会計補正予算案など議案14件、報告案件4件が上程された。

5日目

各常任委員会。

8日目～11日目

決算特別委員会各課室の令和6年度決算について審査。

現地視察、審査総括。

最終日

決算特別委員長、各常任委員長報告の後、14議案を全会一致で可決、承認。4議案を報告済みとした。また、人事案件3件に同意し、閉会した。

定例会で決した 主な内容

- 令和7年度一般会計補正予算の主なもの町制施行70周年関連事業 144万円
- 介護保険施設への物価高騰対策事業 221万円
- 悠紀の国五城目自然観察園の樹木剪定などクマ対策 443万円
- 8月15日までの大雨災害に伴う農地の復旧事業 3174万円
- タミナルパーク磯ノ目の遊具更新 187万円



熊の恐れなく散策を(悠紀の国五城目)

水害からの復興を 目指す町の決算を問う



収穫前に被害を受けた田畑

総務課

普通交付税に依存せず、自主財源の確保が課題。財政調整基金は20億円を目標とし、政策的な積み増しが必要。公共施設削減は基金を活用し、住民理解を得て計画的に進めることを指摘。DX推進は計画策定が急務。新たな財政シミュレーションの作成・報告を確認。

議会事務局

全国市町村国際文化研修所での議員研修を受講。広報「みんなの町議会」は発信強化のためページ数確保を確認。印刷業者指名条件の緩和や、新しいデザイン導入の検討を指摘。

消防本部

県内で平均年齢が最も若い消防本部。計画的に消防学校入校を進め、人材育成を強化。女性を含む消防団員確保を呼びかけ、防災士資格取得との連携を提案。消防施設は説明・合意形成を経て、集約・コンパクト化を進めることを確認。

まちづくり課

デジタル専門監を配置。企業版ふるさと納税を開始し3社が寄付。公共交通は全域で戸口運行を開始、便数増など改善を確認。ふるさと納税返礼品の拡充や事業者との交渉を指摘。

農業委員会

地域計画と目標地図を策定し、毎年意見交換を実施。基盤整備の加速、相続登記・作物選定の支援を求め、専門職増員の必要性も指摘。農業者年金は受給者70名、新規加入者9名。

税務会計課

一般税収納率は98.04%で高水準。滞納繰越分の収納率は依然低く、差し押さえ通知の活用など厳格な対応を参考にと指摘。電子契約導入の提案、基金運用の工夫も求めた。国保税については毎年直近3年のシミュレーションを提示し共有することを確認。

住民生活課

空き家は774件、解体補助は18件実施。補助の継続に加え、町内会が主体となる改修事例も参考にと提案。備蓄品は毛布や給水袋を補充し、指定避難所に最低限の食料を備蓄。防災監の任用は大きな前進。防災担当課の新設も指摘された。

商工振興課

物価高騰対策として町民に1万円の商品券を発行。ものづくり支援事業5件を対象に。指定管理事業所には収益改善を求めた。



小倉地区の土砂災害

農林振興課

新規雇用奨励金1社、次世代人材投資1名、園芸産地創造1名、多面的機能支払い交付金23団体に交付。流木処理の交付金対象を確認。森林環境譲与税基金3482万円の有効活用、森林資料館展示の工夫・入れ替えを指摘。

健康福祉課

特定健診・後期高齢者健診の受診率が向上。胃がん2名、大腸がん5名、肺がん1名が見つかり、健診の有用性を共有。こども家庭センター設置の早期具体化を求めた。第2期町地域福祉計画、社会福祉協議会の地域福祉活動計画が策定される今回こそ、重層的支援体制整備事業に取り組みべきと指摘。相談援助人材の質向上が課題。



LED化されたウッドロード

建設課

橋梁補修や舗装改良、歩道灯LED化を実施。社会インフラの集約やコンパクトシティ化を段階的に進めることと、青空号増員の考えを確認。

企業会計

水道事業
給水人口7,485人。有収水量の減少により8年連続赤字。料金改定後3年度目に黒字化の見込み。アセットマネジメントにより老朽化対策を推進。浄水場は止水板対応とし、移転や盛土建設、広域

化を料金改定後に検討することを確認。

下水道事業

水洗化人口5,099人で水洗化率83.5%。使用料値上げは、表面上は黒字だが実態は一般会計依存型であることが理由。樋門2か所をフラップゲート化することを確認。

生涯学習課

公民館の集約・機能強化の検討を確認。矢田津世子の本をふるさと納税返礼品としての活用を提案。町内の文化資源を子ども世代へ継承する機会創出を確認。体育施設は福祉と連携しての利用促進を指摘。

学校教育課

教育留学事業は令和5年度20名、6年度28名の実績。統合型校務支援システムが本稼働。ICT支援員やこども議会運営の外部人材活用を提案。給食無償化は評価しつつ単価見直しを指摘。空き教室の活用・校舎統合の検討と維持管理費圧縮を求めた。

追加審査

住民生活課
空き家解体費補助は、建築年次を問わず対象とする方針を確認し、補助率の引上げを指摘。

商工振興課

朝市ふれあい館は建設10年経過で物販が可能に。指定管理料は提出予算やヒアリングを反映し、算出していることを確認。収益物件は利益増を指摘。

現地視察

ウッドロード歩道灯LED化工事、五城目橋、廣徳寺橋、町道小野台墓地線、合地地区の災害現場、黒土付近の浸水被害箇所状況をそれぞれ確認した。



完成を待つ廣徳寺橋

マイナ保険証利用促進へ



リーフレットをよく読んで利用登録を

国民健康保険の健康保険証の有効期限が令和7年9月30日に終了することに伴い、マイナ保険証利用促進のためのリーフレット作成費が補正計上された。

委員から「マイナ保険証登録率は」と質疑があり、当局は「国保加入者のマイナ保険証登録率は68・81%、保険証としての利用率は21・53%（令和7年5月時点）」と答弁。

委員からの「現行の保険証はいつまで使えるのか」との問いに「令和7年9月末で廃止となり、その後は登録が完了していない方には資格確認証を発行していく。マイナ保険証移行100%を目指すためにリーフレットを配布する」と答弁があった。

雀館運動公園の管理整備費用として、芝生広場外苑部の草刈、生け垣・枯木の伐採委託料と第一〜第三駐車場の区画線再塗装工事費用が計上された。当局からは「きやどっこまつりで人の往来が増えることから、公園整備とクマ出没抑制のため生け垣や枯木の伐採を行った。駐車場の区画線は、経年劣化でほとんどが消えてしまいい再塗装した」と説明があった。

委員から「駐車場区画は、どの程度の周期で塗装を行っているか」と質疑があり、当局から「決まっているわけではないが、前回塗装したのは約10年前」との答弁があった。



きれいに整備されすっきりした雀館公園

（佐沢由佳子）

教育民生 常任委員会

地域性にあった プログラミング教室を



STEAM教育とは

プログラミングワークショップを通じてSTEAM教育を小中学校で実施する。

委員から「どんな業者に委託して、授業は何回開催するのか」と質疑があり、当局から「パナソニック株式会社による炊飯器を使ったプログラミングワークショップを計画。当町で収穫された新米を使って、おいしい炊き方をプログラミングする授業を小中それぞれ1回ずつ開催予定」と答弁があった。

大雨により 農地に被害発生



被害を受けた農地（内川浅見内地区）

8月15日の大雨により農地10ヶ所、概算被害額3200万円の災害が発生した。これに伴う工事請負費として、2253万5千円が補正計上された。

委員から「激甚災害の指定はされるのか。工事着手の時期は」と質疑があり、「激甚災害指定については未定である。10月末から11月末に国の災害査定調査を受け、被災規模、被災額が決定後工事発注する。土砂流入箇所については、融雪後から5月末までに復旧予定である」と答弁があった。

また、「県内で大雨災害が頻発しており、復旧工事の調査設計業者が見つかりにくい状況。8月20日以降に発生した災害復旧にかかる予算については、予備費を充て不足の場合は専決処分を進めていきたい」と当局から説明があった。

給水車を新規導入

水道事業予算の補正に伴い委員から、新規給水車について質疑があり、当局から「5月12日に湖東自工（株）と2450万円で令和8年2月20日を納入期限として契約済。積載するタンク容量は2800リットルで電動ポンプ付きである。給水車を格納するための車庫を今後建設する

（石川 重光）

総務産業 常任委員会

農協の移動販売事業を支援



多くの町民の買い物支援に

委員から「移動販売の委託料はどのくらいか、また金額の根拠は」の質疑に、「移動販売に係る経費を農協で試算し算出した。予算は156万円で、内訳は人件費、燃料費、資材費などである。集落支援員活動事業予算に計上した」と答弁があった。また、「二企業の販売活動を支援するのか。買い物困難者の支援として町民全体の社会貢献活動であるべきだ」「移動販売事業の採算が取れなければやめるという選択もあるのではないか」との意見に、「移動販売事業は社会貢献活動の一環として農協が取り組んでいる。その活動は厳しくなっているが、この事業は町にとって必要であることから、継続に協力するという考えである」と答弁があった。

委員から「移動販売はダイサンスーパー閉店に伴う買い物困難者への補完事業でもあると理解していた

が、現状維持の支援だけでは行政が関与する意味が薄いのではないか。支援を通じて人員確保や販売地域の拡大を図り、現状よりも充実した活動となるよう、町から農協へ要望・協議して欲しい」と指摘した。

カラス対策は進んでいるか

あなたにかわって
聞きました

一般質問

町長 街路樹の強剪定や電線の 鳥よけ対策を行う



強剪定予定の街路樹（五城館付近）

石川 県道秋田八郎潟線や国道285号線、路線沿いの歩道などのカラスによる糞被害が依然として続いている。生活被害や景観・美観を損ねる被害などへの対策は進んでいるか。

町長 県道秋田八郎潟線、国道285号線は県の管理であることから、糞被害が多い時には路面清掃車による洗浄を依頼している。



いしかわ
石川 しげみつ
重光

一般質問動画はQRコードから

石川 カラスによる生活被害や景観被害、健康被害への対策の一つとして、電線の鳥よけ対策を関係団体との連携で進めているか。

町長 関係団体に依頼して電線に鳥よけなどを設置している。7月下旬には東北電力に現場を確認してもらい、全面対応は難しく、被害の多い場所から対応することとしている。作業工程として、3カ月程かかる見込み。



国道沿いに布設された電線

中央線の街路樹は、昨年度より強剪定による枝払いを実施している。本年度も、五城館から馬城橋までの区間で予定している。

**荒廃農地発生
予防策は**

石川 農作業の受委託や法人経営による農地の利用保全に努めているが、受託者や法人構成員の高齢化も進んでいる。今後、労働力不足により不耕作農地が増加し、再生利用が見込めず、荒廃農地が増加するのではないかと不安を抱える農家もいる。荒廃農地面積拡大への対策は。

荒廃農地は今後どのように推移する

石川 農家数の減少や農業従事者の高齢化・担い手や労働力不足が課題であることから、農地が適切に利用されなくなり、荒廃農地面積は高齢化の一層の進行で拡大することが懸念される。本町の荒廃農地面積はどのように推移し、現状はどうなっているか。

町長 荒廃農地面積は、再生可能農地、再生困難農地ともに増加傾向にあり、今後増えていくことが想定される。令和6年度に策定した地域計画においては、10年後、全農地面積の約31・7%が担い手未定の状況となっている。



基盤整備された農地（杉沢地区）

町長 基盤整備事業を活用しながら農地を整備し、新たな担い手が参入しやすい環境を整えるよう努めている。多面的機能支払交付金事業なども実施し、農業者の農地管理に支援を行い、荒廃農地の増加抑制を図っていく。

石川 担い手がいない、法人化の動きも見えない、また、基盤整備には数年の歳月を要することや、不耕作地が増加し再生利用が見込めないのではないかと不安を抱える農家もいる。農地が有効に活用出来るよう積極的に対策を進めるべき。

一般質問

9議員が登壇 我が町政を問う

一般質問とは？

- ・年4回の定例会において、議員が町政全般について現状や方針を問うものです。
- ・答弁を含む一人当たりの持ち時間は60分で、事前通告制が採用されています。
- ・質問をするかしないかは、議員個人の判断によります。

質問者

石川 重光 議員

- カラス対策は進んでいるか
- 農地の有効利用について

松浦 真 議員

- こども基本計画の予算配分記載について
- 8月8日の内川川の状況、8月15日の当町中心部の状況について
- 職員研修状況や千代田区や秋田県からの出向は
- 小規模多機能自治体を目指すべき
- 町長就任から半年
- システム費の総額と内訳、調達方法やコスト意識について

工藤 政彦 議員

- 県河川「内川川・富津内川」の整備進捗状況と今後の治水対策について
- 8月15日未明の記録的な大雨による被害状況について
- 五城目高校の存続について
- 町道小川口線の舗装改修並びに排水側溝改修について

椎名 志保 議員

- 大雨による水害・浸水被害対策の更なる進化を
- 労働力不足解消に考えはあるか
- 国際的な学びの効果的な実施を

斎藤 晋 議員

- 公共施設をもっと町民に解放すべき
- ひとり親家庭の貧困について
- 空き家対策は
- 災害に強い町・美しい町にするために
- クマ対策は

小玉 正範 議員

- 市街地での緊急銃猟について
- 中学校の名称
- キイチゴ生産
- 町図書室の利用

伊藤 信子 議員

- 農業機械への助成金について
- 腹部超音波検査について

中村 司 議員

- 新入学児童に「軽量リュック」無料配布を
- 放課後児童の居場所について
- 県による馬場目川の維持管理・修繕工事について

佐沢由佳子 議員

- ホームページの改善を
- 公共施設使用料の見直しを
- 介護予防を強化しよう
- 高校生への通学支援を

* 誌面の関係上掲載できなかった●印の質問については、町ホームページにて議会映像を配信しておりますのでそちらをご覧ください。

五城目町議会映像配信 中 www.gojome-town.stream.jfit.co.jp



（中
村
司

田んぼダムや貯水池で 治水対策を

町長 総合的に判断し検討したい

町長 新たな浸水想定区域を盛り込んだハザードマップを更新し配布。防災訓練や講座と併せて防災意識と地域力の向上を図る。

(2) 工事完成までの安全対策は。

町長 内川川は今年度中の工事着手を目指し補償交渉を進め、富津内川は富田地区で令和8年秋着手予定（前倒し協議中）。下山内地区は、今年度中の着手を目標に準備を進めている。

(1) 事業の進捗状況は。

町長 近年の豪雨により内川・富津内川で越水被害が繰り返され、住民の不安が高まっている。県事業は進められているものの、進捗や暫定的な安全策が十分示されておらず、町民の安心確保が課題となっている。

工藤 近年の豪雨により内川

川・富津内川で越水被害が繰り返され、住民の不安が高まっている。県事業は進められているものの、進捗や暫定的な安全策が十分示されておらず、町民の安心確保が課題となっている。

町長 内川川は今年度中の工事着手を目指し補償交渉を進め、富津内川は富田地区で令和8年秋着手予定（前倒し協議中）。下山内地区は、今年度中の着手を目標に準備を進めている。

(1) 事業の進捗状況は。

町長 内川川は今年度中の工事着手を目指し補償交渉を進め、富津内川は富田地区で令和8年秋着手予定（前倒し協議中）。下山内地区は、今年度中の着手を目標に準備を進めている。

(2) 工事完成までの安全対策は。

町長 新たな浸水想定区域を盛り込んだハザードマップを更新し配布。防災訓練や講座と併せて防災意識と地域力の向上を図る。

コストをかけずに治水水ためる「田んぼダム」

田んぼダムせき板

貯水機能が上がる

下流の増水を防ぐ

「田んぼダム」のイメージ

あなたにかわって 聞きました 一般質問



くどう まさひこ
工藤 政彦

一般質問動画はQRコードから

小規模多機能自治への 参加は

町長 しかるべき時期に判断



水門・樋門の管理も重要

町長 5本の柱を掲げて当選した町長の改革状況は、現状で何パーセント進んでいるか。その改革に対して点数をつけるのであれば何点か。

あなたにかわって 聞きました 一般質問



まつうら まこと
松浦 真

一般質問動画はQRコードから

職員が内発的に 動くために

松浦 町政の舵取り役は町長だが、実際に動くのは役場職員一人ひとり。どのような具体策が必要か。

町長 職員研修は、メニューを充実させ、受講を積極的に進める。外部人材は、令和6年度にはデジタル専門監、今年度からは防災監を登用、いずれも専門的知見を活かしている。



デジタル活用で災害対策も効率化を

45（29％）、△120／45（44％）、×12／45（26％）。自分なりに分析し、進捗率は半年時点20％、点数は今はずいぶんない。任期満了まで、進捗・点数とも100以上にすることを目指す。

DX・情報システムの 現状は

松浦 システム費の総額と内訳、調達・コスト意識は。

町長 町の情報システムの調達を担当する部署は大きく3つ。①平成25年度から県内12町村で設置している秋田県町村電算共同事業組合での調達、②総務課の電算担当による調達、③各課室の担当による調達。

電算組合であれば情報システムを12町村で共同利用し経費の節減効果があり、資料では令和6年度までの12年間で約11億円、単純に1町村当たりで割ると約9000万円の節減と試算。

可能な限り競争入札でシステムを調達しているが、継続利用システムは納入業者と随意契約による調達が多く、必ずしも適正な価格判断がつかない現状。

町長 デジタル専門監から、庁舎内にシステム調達・評価

の判断組織設置の提案があり、10月の設置を目指して準備中。

最も経費がかかるのは、電算組合経由の住民情報システム（住民票などがパッケージ）で、年額約1600万円。契約はプロポーザル方式で、行政情報システム共同化事業推進機構などと契約。

基幹系業務のアカウンターD数は約60（予備含む）。専門監からは全国の自治体事例に照らし、可能な限りアカウンター数を削減をすべきと指摘された。ガバメントクラウドは、標準化システムが移行する令和7年2月以降の利用料見込み、常時接続なら年間約5000万円（電算組合経由情報）。

今後、導入意思決定と強化の会議体の設置、調達・運用・資産管理の集約による合理化・効率化・セキュリティ強化、電算担当の増員を念頭に、対応・整備を進める。

五城目高校の 存続に向けて

工藤 五城目高校は全校生徒数55人、令和7年度新入生は定員80人に対し13人と大幅に減少しており、存続の岐路に立たされている。県の「第8次高等学校総合整備計画（素案）」でも、令和8年度以降、学校の在り方について地域と協議する方針が示された。

(1) 高校の存続に向けた協議会の設立は。

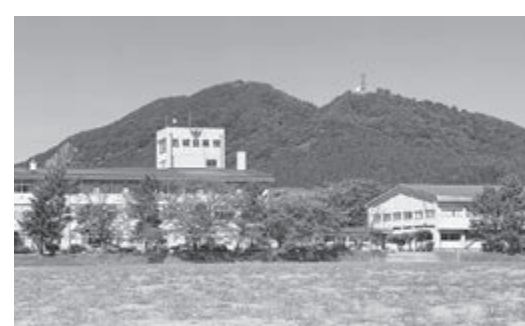
町長 五城目高校教育振興会内に「魅力化向上検討部会」を設置し、学校と協議を進めている。

(2) 関係機関や住民団体との連携は。

町長 町長、校長、周辺自治体の教育長、PTA、同窓会などが参加し、多様な知見を持つ方も加わって学校の魅力化策を検討していく方向で協議を進めている。

(3) 今後の具体的な取り組みは。

町長 昼食支援やパソコン購入支援、振興会補助金増額などを実施し、8月には保護者アンケートも行った。今後は



存続が望まれる五城目高校

小川口線の舗装と 排水側溝の改修を

町長 町道小川口線は舗装破損が多く、現状はその都度補修で対応している。湯ノ又台線で実施中の改良例を踏まえ、今後有利な起債を活用して舗装改良を検討する。側溝は農業用水路であるため、水利組合の協力を得て浸水防止に努める。

日本一子育てしやすい町にするため

あなたにかわって
聞きました
一般質問

町長 現在行われていないサービスの提供について実現

国・県・町の補助はどうなっているか。 国・県・町の補助はどのような状況であるか。十分か。補助金の

斎藤 ひとり親家庭に対する

国・県・町の補助はどうなっているか。

斎藤 ひとり親家庭に対する

国・県・町の補助はどうなっているか。

斎藤 ひとり親家庭に対する



総額はいくらか。町で暮らし子どもが生まれたら大人になるまで、一千万円（国・県・町の補助を合わせて）の補助の話は以前もしたが、今後検討するつもりはあるか。

町長 ひとり親家庭の経済的な負担を軽減し、子育て支援をするために国・県・町から様々な給付金や手当がある。児童扶養手当、児童手当、特別児童手当、その他に住宅や医療費に関する補助、税制上の控除など、支援は手厚くなっている。補助金の総額は、

所得や扶養している子どもの人数により異なるが、一例では、「5歳の子どもひとり」を扶養している場合、月額5万6千690円、年間で68万2800円である。（扶養手当4万6千690円・児童手当1万円）当町で生まれて高校を卒業するまでの経済的な支援金額は、こども一人当たり約500万円となっている。その他必要な支援については今後調査する。

その他に

- 寒い時期・猛暑の時期に公共施設をもっと開放すべき
- 集いの場・寄り合いの場に公共施設をもっと開放すべき
- 空き家対策にもっと補助金を
- 空き家利活用のため移譲を受け買取もすべき
- 災害に強い町にするためなどを質問した。



子どもに腹いっぱいごはんを



国・県・町でもっと補助を

大雨被害対策の更なる進化を

あなたにかわって
聞きました
一般質問

町長 雨水流出抑制対策を検討

椎名 8月15日未明発生の大雨は、観測史上最大を記録し、住家などに被害をもたらした。要因をどうとらえているか。

町長 雨が町中心部に激しく、集中的に降ったことから、排水処理能力を超過した浸水被害となった。

椎名 森山からの雨水流入で農業用水路、排水路の氾濫は、これまで何度も住家に浸水被害をもたらしているが、具体的な対策は示されていない。町単独予算で対策すべき時に来ているのではないか。

町長 側溝清掃の継続、ため池の整備や改たな設置、富津内川までの排水路の整備など、雨水流出抑制対策を検討。また、県事業の国道285号冠水対策と連携した排水路の改修を計画。内水ハザードマップの作成、公表を本年度中に予定している。



穏やかな生活はいつ訪れる

椎名 未明の突然の大雨には、注意喚起に課題がある。また、情報の多重化・多様化に自ら対応することや、情報を得る手段の無い人への伝達の徹底も必要だ。防災行動の一つとして呼びかけてはどうか。

町長 気象庁の早期注意情報を注視し、より早期に防災体制を整備し、早めの避難行動を呼びかけていく。

また、最大の情報伝達手段は人である。日頃からのコミュニケーション・シミュレーションと自助・共助の地域防災力向上に努める。

「特定地域づくり事業」は人口が急激に減少している地域の維持と経済の活性化を図り、移住定住・Uターンも見込まれ、東成瀬村がすでに事業を開始している。検討してはどうか。

町長 令和2年度に特定地域づくり事業ニーズ調査を行ったが、協同組合設立に課題があり、事業実施に至らなかった。現時点でも組合設立の可能性は低く、今後可能性が高まれば事業実施の検討を進める。

椎名 農繁期は農業に従事し、農閑期は他の仕事をしたが、自由に過ごす半農半Xの取り組みがある。県の委託を受けた事業所が本町でも農業体験や教育留学と併せ、体験として行っているようであるが、農家の後継者不足や移住定住対策として、町の事業として立ち上げてはどうか。

町長 令和3年度から県内9地域で取り組んでいる。町単独で事業化した状況を確認したところ、成果が得られず単年度で事業終了となった例もあり、慎重を要すると考える。



報告会で成果を発表

国際的な学びの効果的な実施を

椎名 昨年度、「五城目から世界一周」と題したグローバル人材育成事業が立ち上がり、中学生を含む30歳未満の若者の渡航に補助を行った。今年は18歳から対象年齢が狭められ、事業が後退した。より多くの若者に貴重な経験の機会を提供するよう対象年齢を再考すべきだ。

町長 3月議会総務産業常任委員会での指摘やまちづくり課に対し様々な意見があり、ルールを見直した。今後は実態に合わせて、事業を見直していく。

椎名 長期休業中に海外への短期留学やイングリッシュキャンプを行う高校も増えている。この事業が、そういった機会への後押しになることを期待する。

農業機械購入への助成を

あなたにかわって
聞きました

一般質問

町長 農業情勢の変化に応じた支援を行う

伊藤 新規就農者や高齢農業者への農業機械の購入・更新に対する支援の必要性をどのように捉えているか。

町長 今年度より機械を導入する農業法人に対し、県と町の協調助成が拡大され、3分の2を支援している。今後も農業情勢の変化に応じた支援をしていく。

伊藤 さらに県・国の制度を活用した町独自の支援策導入を積極的に検討し、制度設計に向けた議論を提言する。

町長 町独自に事業化するためには、持続的な農業を実施する要件などを検討する必要があると考える。



いとう のぶこ
伊藤 信子

一般質問動画はQRコードから

腹部超音波検査で早期発見

伊藤 近年、肝臓・膵臓・腎臓などの疾患の早期発見に超音波検査の有用性が認知されている。高齢化が進む本町において、健康寿命延伸の観点からも定期検査に超音波検査を取り入れることは重要と考える。2年前からモデル事業として湖東厚生病院で行われているが、実施できる件数が少なく、予約ができない。現在の健診における超音波検査の実施状況は。



高額な農業機械

町長 令和6年度から50歳以上を対象に50名の予約枠を設けて実施している。

伊藤 超音波検査を健診項目に加えることに、町の見解は。

町長 無症状のうちに検査を行うことで膵臓癌などを早期に発見し、治療につなげることができる。働き盛りの疾病予防と健康寿命の延伸や医療費の削減につながる。

伊藤 実施に向けた課題と対応策は。

町長 健診は消化器内科の担当医1名で対応しており、1



超音波検査で健康寿命の延伸を

自治体で50名以上の予約は難しい。病院の協力を得ながら、来年度からは初回の方を優先し、新たな受診者を増やしていく。

伊藤 近隣自治体での導入状況や、取組み事例を把握しているか。

町長 導入は八郎潟町と当町の2町のみ。他町村が来年度以降実施する可能性もあり、予約数を確保し、引き続き有用な健診として継続していく。

町キイチゴの課題解決策は

あなたにかわって
聞きました

一般質問

町長 再び町特産としての定着を図る支援を実施中



町キイチゴが全国にとどろくか？

小玉 町キイチゴ生産の課題は、生産量・生産者・収益の3つをそれぞれ増やすことと考える。生産者の努力だけでなくその状況を作るのは困難である。町としての援助策は。

町長 五城目産キイチゴを使用した「かむかむラズベリーソーダ味」が8月4日より全国発売され、それに伴ったPR活動をしている。このチャンスにキイチゴを町の特産として再び定着できるように、特産物振興活動をしている。生産者の意欲向上・新規生産者の確保の一助にしている。



こだま まさのり
小玉 正範
(公明党)

一般質問動画はQRコードから

小玉 売り込みには工夫が必要で、キイチゴの健康への効果・大人も楽しめる商品の開発が大事ととらえている。それをバックアップするキイチゴ班が必要ではないか。

町長 現在、キイチゴ担当職員は1名だが、研究会・販売会との連携を密に行い、商品開発やPRイベントの開催、新幹線によるキイチゴの輸送に大きな役割を果たしている。商品開発については、県6次産業化関連事業を活用し、商品を検討している生産者もいる。町も支援の在り方を検討する。

クマ対策の緊急銃猟は

小玉 学校周辺でクマの目撃足跡発見件数は全国2位の北海道の5倍以上で、1位は秋田県。9月より市街地での緊急銃猟が可能になった。本町でもその体制は整っているのか。

町長 本県においては緊急銃猟マニュアルを策定している市町村はなく、「ツキノワグマ市街地等出没対応マニュアル」により対応している。監視警戒レベルと緊急出動レベルに分けている。人身被害が発生する危険性の高い緊急出

中学校名の「第二」は

小玉 本町の小学校名には、「第一」が入っていないが、中学校名にはある。その理由は。また、「第二」を外す校名変更の時期なのでは。

教育長 昭和22年五城目中学校として開校したが、昭和33年に五城目第一中学校と命名された。将来の第二、第三の中学校を予想して決定した。また、校名の変更については、事務手続き上の問題や、卒業生の思いなどもあり、慎重に対処すべきであると考えている。



クマよ、市街地に出るな

動レベルでは、現地本部を設置し、指導班、現地調査班、広報班、規制班、追い払い・捕獲班の体制で対応することになっている。

「わーくる」利便性は高い

小玉 「わーくる」の閲覧室の利便性は非常に高く、一般の方や学生もテーブルでの勉強や仕事をするには大変都合がよい。中学生・高校生の利用人数は。

教育長 利用者の人数は、中学生以下の子どもと大人に分けてカウントしているもので、小学生・中学生・高校生の人数は把握していない。全体の利用人数は、本年4月から6月までの累計で、1921人となっている。中学生の利用では、中学生が2、3人、高校生は1、2人程度と見られる。

小玉 「わーくる」を、気軽に利用してもらえようように、100円前後で買えるお茶やコーヒーなどの自動販売機を設置してはどうか。

教育長 あくまで学校施設を開放した図書室で、子ども達が授業や昼休みにも使用していることから、自販機の設置はしない。



町ホームページの改善を

町長 情報の整理が必要



利用者の視点に立ったホームページを担が大きく
なっている
現状を認識
している。
周辺の町村
の状況も踏
まえ、各委
員会で協議
を行い、ス

佐沢 現在の町のホームページは情報が分りにくく、目的のページにたどり着くまでに手間がかかる。リンク先の更新も滞っている箇所があり、情報が整理されていない印象を受ける。町民や利用者にとって、必要な情報にアクセスしづらく不便である。近隣市町村の良い例を参考に改善すべきだ。ホームページの全面的な見直し、再構築を行っているかどうか。

佐沢 スポーツ少年団や部活動での広域体育館やスパーク五城目など公共施設の使用料については、児童生徒数の減少により、活動費用に占める施設使用料の負担が大きくなっている。近隣市町村では、スポ少や部活動について体育館や公民館の使用料を免除している例もある。本町においても、子どもたちの健全な育成を支援する観点から、公共施設使用料の無償化を検討しているかどうか。

町長 十数年前は、介護予防教室を開催していた。75歳以上の参加者が多く、水着の着脱が困難でハードルが高いという課題があった。今後は、60〜70代を対象とした温水プールでの介護予防（フレイル予防）教室の企画も有効と考える。



他にはない町営の温水プールを活用

あなたにかわって聞きました 一般質問



さざわ ゆか こ
佐沢由佳子

一般質問動画はQRコードから

町長 ホームページの整理や削除を改めて指示する。全面的な見直し・再構築は今現在考えていないが、情報の整理が必要と考えている。

町長 ホームページの整理や削除を改めて指示する。全面的な見直し・再構築は今現在考えていないが、情報の整理が必要と考えている。



子どもたちが利用しやすい公共施設へ

佐沢 インターバル速歩というウォーキング方法が国内外で注目されている。早歩き3分と、ゆっくり歩き3分を1セットとし、一日5セット以上、週4日以上が推奨されている。健康効果は多岐にわたり、動きは単純で年齢問わず取り組め、介護予防や生涯スポーツに最適である。高齢化率が高い本町にとって介護予防は重要であり、健康づくりの一環として町の事業に取り入れてはどうか。

昭辰橋上流・左岸の 着工見通しは

町長 私自身も交渉に努める



早期の掘削・伐木で元の川幅へ（昭辰橋上流）

町長 県からは「木の所有者からの応答がない現状に変わりなく、着工の見通しがついていない」との回答であった。町として引き続き県へ要望すると共に、私自身も所有者から理解を得られるよう交渉に努める。

町長 今年度の利用者数は平日平均で58・1人と前年度比25・5人増加している。屋内での遊びが中心となり、自由度と寛容性に欠けると感じる。子ども目線で捉えた「遊び・生活の場」の在り方を検討すべきでは。

町長 令和6年度末現在、本町部では333軒の空き家があるが、児童館のような遊び場として活用可能な物件は今のところ見つかっていない。引き続き調査を行い、適当な物件があれば検討していく。



あなたにかわって聞きました 一般質問



なかむら つかさ
中村 司

一般質問動画はQRコードから



昭辰橋から見た上流

教育長 児童生徒の携行品の重さについては文部科学省から通達が発出されており、本町でも身体的な負担軽減に取り組んでいる。近隣町村の状況や事例を参考に、総合的な子育て支援策を今後検討する。

教育長 登録している保護者にアンケート調査を実施し、意見や要望を今後の運営の参考にしたい。また放課後の過ごし方を自分でデザインすることが出来る「アフタースクール構想」について検討していく。

自由利用できる児童館がほしい



利用者58.1人 手狭では

中村 昨年10月開催の「子ども議会」において、五城目町は遊び場が少なく、空き家を活用して自分たちがデザインに関わり、自由に利用できる児童館設置の提案があった。県内初の『こどもが作る、空き家活用の児童館』が実現出来れば、町のイメージアップにもなる。町の宝である子どもたちの願いを叶えられないか。町長の考えは。

あれ

なんとなつたべが!

令和6年9月定例会一般質問より



第3回

議会議員全員協議会

令和7年8月25日

報告案件

1. 水道料金及び下水道使用料の改定について
2. 五城目高校について
3. 町表彰条例施行規則の一部改正について
4. 全国朝市サミット開催について
5. DXの推進に向けた取組状況について
6. 令和7年8月の大雨について

第4回

議会議員全員協議会

令和7年9月12日

報告案件

1. 秋田市・潟上市・八郎湖周辺清掃事務組合ブロック広域化協議会への由利本荘市参加に向けた検討について
2. 令和7年9月2日の大雨について

議員研修報告

地域福祉の課題を考える

研修名 市町村議会議員研修

研修日 6月30日～7月2日

研修先 全国市町村国際文化研修所

参加議員 佐沢由佳子

議会の見える化

住民との信頼築く

研修名 秋田県町村議会広報研修会

研修日 7月18日

研修先 秋田県市町村会館

参加議員 議会広報編集委員9名

議員のなり手不足を打開

研修名 秋田県町村議会議員研修会

研修日 7月18日

研修先 秋田県市町村会館

参加議員 議員13名

地方行政に求められる役割

研修名 市町村長等・議会議員

特別セミナー

研修日 7月28日～29日

研修先 全国市町村国際文化研修所

参加議員 椎名 志保

条例立案の流れを体験

研修名 地方議員のための政策法務

政策実現のための

条例提案に向けて

研修日 8月18日～20日

研修先 全国市町村国際文化研修所

参加議員 松浦 真



全国から受講者が集まる研修所(滋賀県大津市)

人権擁護委員の
推薦に同意

新任

鳥井 雅則氏
岩 野

新任

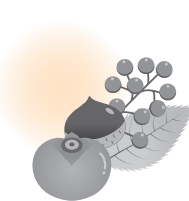
伊藤千恵子氏
八 田

教育長の

任命に同意

新任

小玉 史男氏(64歳)
東磯ノ目



(椎名 志保)

問

朝市への出店数減少の解消策として、出店しやすい仕組みづくりを進められないか。

1年前の答弁 委託販売については、条件が合えば対応可能と確認。今後も生産者の声を収集していく。

現在 6月から朝市活性化支援員を設置し、生産者へ朝市出店の呼びかけを進めている。委託販売への意向がある方には出店者を紹介するが、8月末現在まで実績はない。呼びかけは今後も継続する。



空きスペースが多く寂しい

問

民間では部下が上司を評価する方法を実施する企業が増えている。導入を検討してはどうか。

1年前の答弁 当町では、業務目標の達成状況を自己評価し、上司が評価する制度であり、国の制度を活用している。他の評価システムの情報収集にも努める。

現在 部下や上司、多方面からの評価は、評価制度の透明性・信頼性を高める効果があるとされるが、人事評価の責任は上司が負うべきとの考えに基づき、国の制度を活用している。現行評価の意義を周知し内容の充実を図りながら、評価方法の情報収集にも努める。



より良い職場環境を

問

現在、通行止めとなっている森山第二高地への道。今後の対応は。

1年前の答弁 道路の管理者であるNTTドコモとの協議を2年間行っていないが、本年中に再開したい。

現在 NTTドコモとの協議の場を設け、面会の約束を取りつけることができ、協議内容については、慎重に進めたいと考えている。



頂上からの雄大な景色

問

空き家は深刻な問題。全国版の空き家バンクがあるが、導入の意向は。

1年前の答弁 町内の空き家を調査中であるが、令和6年現在600件ほどある。ウェブページに掲載しているのは3件、全国空き家バンク導入を検討する。

現在 令和7年4月から全国版空き家バンクへの登録を始めており、8月末現在で空き家1件、空き地2件がマッチングにつながった。今後も所有者への登録促進や利用希望者への情報提供を強化することで、登録件数の増加と成約に努める。



全国空き家バンクの活用を

わたしの居場所

ほっと出来る仲間



帝釈寺町内
『さくら会』

どんな活動をしていますか

帝釈寺町内の60〜80代の13人の仲間です。宮川栄子さんが女性達の親睦を深めるために、10年前に立ち上げました。毎月一回の開催で、孫や年金の話題などのおしゃべり



百万遍念仏で安全祈願

今後の活動は

- 冬場など時間があるときに、料理や編み物について教え合っていきたい。
- 高齢になると参加する会が少なくなるので、この会があるとありがたい。
- カラオケ大会をやりたい。
- 災害が起きた時のことを考え、訓練をすることが大事。

(伊藤 信子)

がんばってます

自分の強み



五城目第一中学校
3年

渡邊 □□さん

私が熱中していることは野球です。小学三年生から始め、試合で結果が出るのが楽しく、一番の野球選手になりたいという一心で今まで続けてきました。ずっと男子と一緒にプレイしてきましたが、中学生になってから、秋田県唯一の女子軟式野球チームに所属しました。女子野球に出会ったことで、今までと違った楽しさを知ることができ、野球への熱がより高まりました。



た。全日本中学女子軟式野球大会に副キャプテンとして出場することもできました。私が練習で心がけていることは、自分が納得することです。ただ投げたり打ったりするだけではなく、自分の力が入るフォームはどんな形なのか、球を速くコントロール良く投げるにはなど、頭を使い考えながら練習に取り組んでいます。もう一つは、自分が納得した状態で練習量をこなすことです。とても地味な練習で他のメンバーがきつーと感じていることでも、自分はとても楽しく取り組んでいます。その量が自信につながり、結果的にパフォーマンスアップにもつながります。他にも自分にはたくさん強みがあると思うので、それを生かしてこれからも頂点を目指して頑張ります。

(佐沢由佳子)

編集後記

県内では、8月から9月にかけて記録的な大雨で各地に大きな被害をもたらした。本町でも、床上・床下浸水が55棟に及び、農地災害や林道、町道被害も広範囲にわたって発生した。

町災害対策本部が9月2日午前9時15分に設置されたことを受け、町議会は本会議一般質問の日程を当初予定の2、3日から3、4日に変更した。

9月10日付け秋田魁新聞に、国が10年後の後継者の決まっていらない農地の調査結果を公表した。全国平均で31・7%。本県では、32・0%。(本町では31・7%)

少子高齢化が進む本町にあっても荒廃農地が拡大する懸念があり、大きな課題である。

今定例会会期中にこうした動きがある中で、7回目の議会広報編集に取り組みました。今後多くの町民に読んでほしい、町政に関心を持っていただけるよう紙面づくりに努めて参ります。

議会広報編集委員

石川 重光 記

